

セゾンマルチシリーズ 据付説明書

FDASP

1402TLXB~2802TLXB, 1402LXB~2802LXB

PSB012D883 

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
リモコン及び電気工事の方法は、裏面の電気配線工事説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法及び冷媒配管工事の方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

工事完了後、これだけは再チェック願います。		
チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外ユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない、暖まらない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない、暖まらない	

1 据付のまえに

○据付はこの据付説明書に従って正しく行ってください。
○工事計画にあっておりますか。

機種・電源仕様
確認してください
配管・配線・小物部品

付 属 品

①	付属品セット	1セット
②	愛用者書類セット	1セット

2 ユニットの運搬・搬入、開梱

- 搬入の際、45°以上傾けないでください。
- 搬入の際、ワイヤーロープで吊り上げる場合は本ユニットの質量にあった太さを選び木枠下面にかけてください。
- 開梱はまず前面を取り外します。次に下面との結合を外します。後面・側面は一体のまま後方へ取り外します。
- 梱包材はきちんと処置してください。（子供が遊ぶと危険です。）

3 据付場所の選定

1. 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。

- 冷風または温風が十分行きわたる所。
- ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
- 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤動作しない所。ショートサーキットしない所。
- 直射日光の当たらない所。
- 周囲の露点温度が23℃以下、相対湿度80%以下の所。
(本ユニットはJIS露付条件にて試験を行ない、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態では運転すると水滴が落下する恐れがあります。)
- エアコン本体・リモコンは、テレビやラジオなどから1m以上離してください。

2. 据付けようとする場所の強度を確認してください。

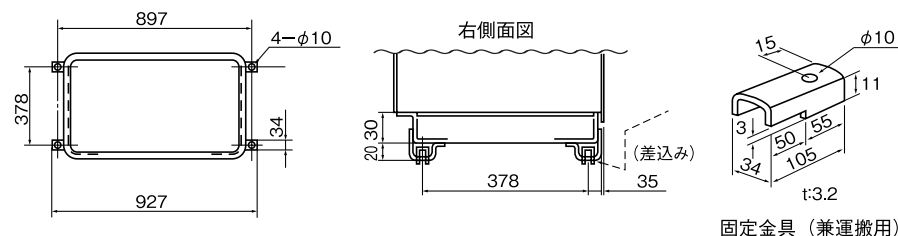
- ユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、桁等で補強して据付作業を行ってください。
- 床が共鳴するおそれはないですか。必要に応じ補強・防振等を行ってください。

3. 点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

- サービススペースとして前面側を1m以上あけてください。
- 電機ヒータを組み込む場合は、「電気を熱源とする温風暖房機の設置に関する運用基準」により、下記のスペースが必要です。
 - 前面60cm以上
 - 吹出口前面1m以上（除くルーバ）
 - 上面10cm以上
 - 背面、側面5cm以上

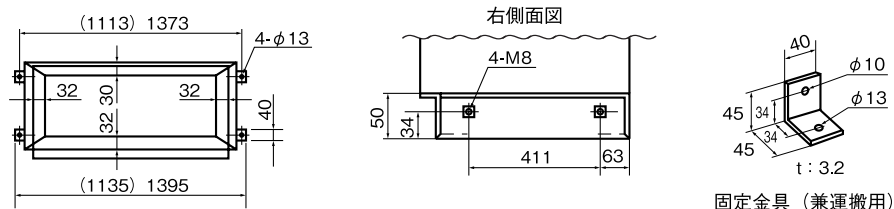
4. アンカーボルト位置、固定金具寸法。

- P140タイプ



●P224,P280タイプ

() 内数値はP224を示します。



4 配管工事

(冷媒配管)

配管の取出し位置については、6項を御覧ください。
冷媒配管は室外ユニットの据付説明書を見て施工してください。

(ドレン配管)

○配管施工後、排水が良好に行われていることと、水漏れのないことをご確認ください。

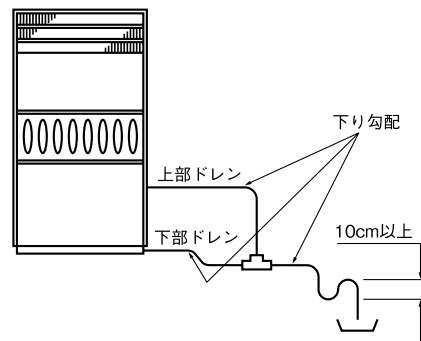
●室内およびユニット内にあるドレン配管は必ず保温してください。

配管工事に不備があると、水漏れし家財等を濡らす原因になります。

●ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。

●ドレン配管は下り勾配 (1/50~1/100) とし、10cm以上の水封がつけられるトラップを設けてください。(臭気止め、逆流防止の為。)

●ドレン配管の出口は臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。



警告

●ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。

5 ダクト工事

1. 直吹きタイプ

- ①送風機切換コネクタ (上部前面カバーの内側にある) を、高速にすることにより機外静圧 50Pa (5 mmAq) 程度がとれます。
- ②ダクトは天板をはずして送風機台へ直接取り付けてください。
- ③両吹き (一部ダクト吹き) の場合は天板打出し部を穴明けしダクトをつないでください。

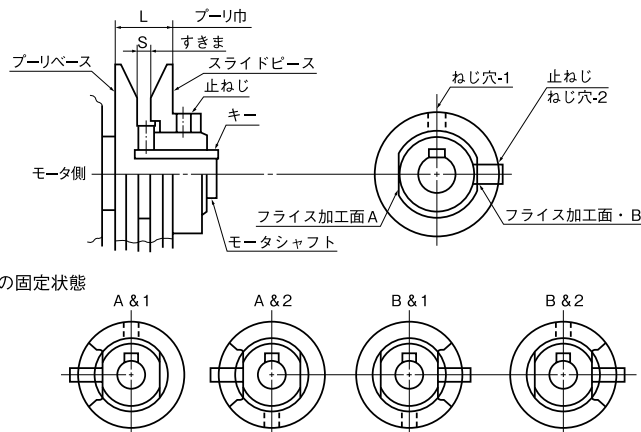
2. ダクトタイプ

- ①ダクト設計に基づき (機外静圧をこえないよう) 施工してください。
- ②ユニットとダクト、ダクトのサポート等は必要に応じて防振キャンパス、防振ゴム等により接続・支持し振動の伝播及び騒音の増幅等にならないよう施工してください。

3. 回転数を変更する場合は次の手順に従い実施してください。(P140,P224,P280 : 可変プーリ仕様の場合)

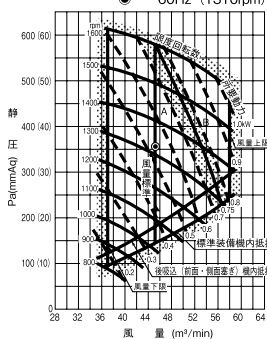
ピッチ径はプーリベースとスライドピースのプーリ巾 (L) を変えることにより調整できます。

- ①スライドピースの止ねじをフリーにして、プーリ巾 (L) = 18mm (すきま : S = 0 mm) の状態から1/4回転単位で回転させプーリ巾 (L) を広げて行き所定の位置にします。
- ②スライドピースの止ねじ穴2ヶ所の内どちらかが必ずプーリベースのフライス加工面 (2ヶ所の内どちらか) と合うようにセットし止ねじ (必要に応じ移動) を締め付けてください。[締付トルク12.5N・m (125kg・cm)]
- ③最後にファンプーリ、モータプーリのV溝のセンタ合わせは、ファンプーリ側で行ってください。尚、調整後、止ねじは確実に締付けてください。[締付トルク12.5N・m (125kg・cm)]

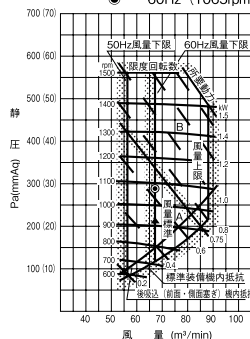


上図の4通りから調整位置に合せ1つ選ぶこと。(必ず止ねじは、フライス加工面で締めること。)

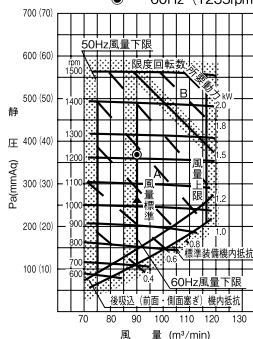
●P140ダクトタイプ
A : 0.75kW標準装備電動機使用範囲
B : 1.5kW電動機使用範囲
出荷回転数 ▲.....50Hz (1120rpm)
●.....60Hz (1310rpm)



●P224ダクトタイプ
A : 0.75kW標準装備電動機使用範囲
B : 1.5kW電動機使用範囲
出荷回転数 ▲.....50Hz (910rpm)
●.....60Hz (1065rpm)



●P280ダクトタイプ
A : 1.5kW標準装備電動機使用範囲
B : 2.2kW電動機使用範囲
出荷回転数 ▲.....50Hz (1040rpm)
●.....60Hz (1235rpm)



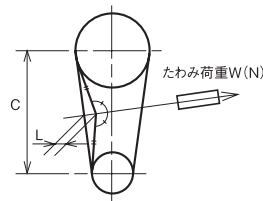
可変プーリによる送風機回転数調整範囲

形式	スタッドプーリまわり回数 プーリ巾L (mm)	0	1/4	1/2	3/4	1	1.1/4	1.1/2	1.3/4	2	2.1/4	2.1/2	2.3/4	3	3.1/4	3.1/2	3.3/4	4	4.1/4	4.1/2	4.3/4	
		18.0	18.4	18.8	19.1	19.5	19.9	20.3	20.6	21.0	21.4	21.8	22.1	22.5	22.9	23.3	23.6	24.0	24.4	24.8	25.1	
P140	送風機	50Hz	1250	1235	1220	1205	1185	1170	1155	1135	1120	1105	1090	1070	1055	1040	1020	1005	990	970	955	940
		60Hz	1465	1445	1425	1405	1385	1365	1345	1330	1310	1290	1270	1250	1235	1215	1195	1175	1155	1135	1115	1100
P224	回転数	50Hz	910	900	890	880	865	855	845	835	825	815	800	790	780	770	760	750	740	725	715	705
		60Hz	1065	1050	1035	1025	1015	1000	985	975	960	950	935	925	910	900	885	875	860	850	835	825
P280	回転数	50Hz	1040	1030	1020	1010	1000	990	980	965	955	945	935	925	915	900	890	880	870	860	850	835
		60Hz	1235	1220	1210	1195	1185	1170	1160	1145	1135	1120	1105	1095	1080	1070	1055	1045	1030	1015	1005	990

4. ファンベルトの張力調整及び点検方法(ダクトタイプの場合)

ファン回転数を調整した時、および試運転終了後に調整してください。

- ベルトが正しく取り付けられていることを確認する。
●ファンプーリーとモータープーリーの中心は合っていますか。
- 鳴きやすりがある場合はベルトのプーリ接触面の磨耗・損傷・破損およびプーリの傷付きを点検する。
- Vベルト1本当たりの張力(張り具合)はたわみ量Lの値を①式にて計算し、その時のたわみ荷重が下表①の範囲になるようにセットしてください。



$L = 0.016 \times C$ ①

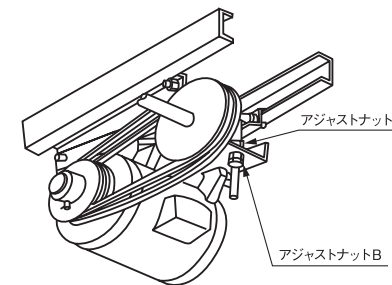
C : プーリの軸間距離 (mm)

表① () 内数値は、レッド仕様の場合

Vベルトの種類	電動機プーリ径 (mm)	ベルト1本当たりのたわみ荷重W (N)	工場出荷時ベルト仕様
A形	65~80	7.8~9.8(10.8~13.7)	P224 レッドベルト A33×1
	81~90	8.8~11.8(12.7~16.7)	P140 標準ベルト A25×1
	91~105	10.8~13.7(15.7~19.6)	P280 レッドベルト A33×1
	106~	11.8~15.7(18.6~23.5)	
B形	115~135	13.7~17.6(21.6~28.4)	
	136~160	17.6~22.5(26.5~33.3)	
	161~	18.6~24.5(28.4~36.3)	

(4) たわみ量調整

- ①アジャストナットBを緩める。
- ②アジャストナットAを締め付け たわみ量を調整する。
- ③アジャストナットBを回定する。
- ④ベルトの張力を確認する。
●ベルトは張り過ぎないよう基準値を確認してください。

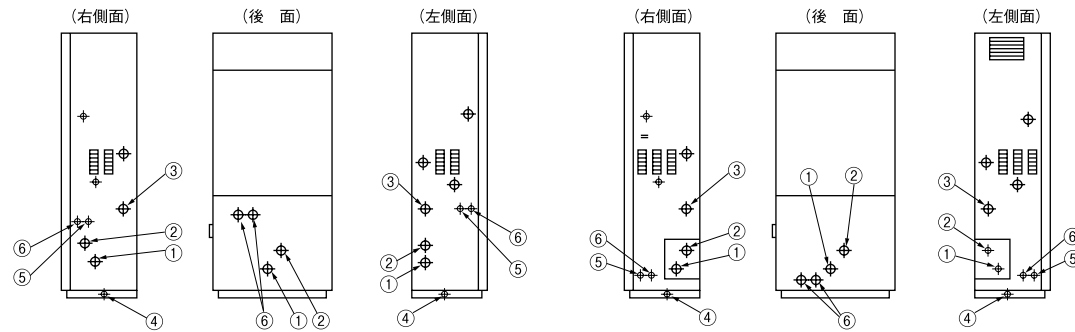


6 配管・配線取り出し

1. 配管、配線の取出しは下図に示す位置より行ってください。

●P140タイプ

●P224,P280タイプ



番号	名称	寸法		
		P140タイプ	P224タイプ	P280タイプ
①	冷媒配管接続口(液配管径)	φ9.52(フレア接続)	φ9.52(ろう付)	φ9.52(ろう付)
②	冷媒配管接続口(ガス配管径)	φ15.88(フレア接続)	φ19.05(ろう付)	φ22.22(ろう付)
③	上部排水口	25A	25A	25A
④	下部排水口	20A	20A	20A
⑤	電源取入口(外板穴径)	φ30	φ30	φ30
⑥	予備電源取入口(外板穴径)	φ30	φ30	φ30

セゾンマルチシリーズ 電気配線工事説明書

FDASP 1402TLXB~2802TLXB, 1402LXB~2802LXB

PSB012D883 

電気配線工事説明書

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

① 電気配線取り出し穴位置および電気配線接続

電源配線

警告

- 下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災の恐れがあります。
- 電源配線の仕様・サイズの選定は、「電気設備に関する技術基準を定める通商産業省令」、「内線規程」に従ってください。また、接続部の緩みがないようにしてください。
- 機器毎に設定された過電流及び漏電遮断器（感度電流30mA）を設置すること。
- 専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないこと。併用した場合、ブレーカー落ちによる2次災害が生じる恐れがあります。

注意

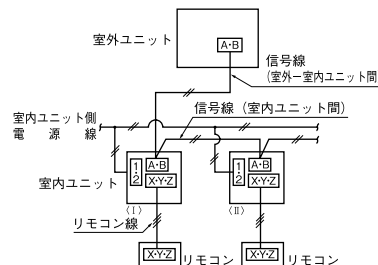
- 8mm²を超える太さの配線は接続不可能です。8mm²以上をご使用の場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐するようにしてください。
- 信号線用端子台に200Vを接続しないでください。
- 電源は工事が完了するまで入れないでください。

○電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。

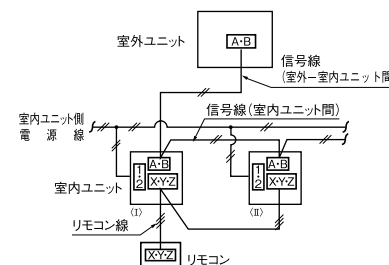
- 1) 電線は銅線以外のものを使用しないでください。
- 2) 電源は、室外ユニット・室内ユニットの夫々別電源。
- 3) 電気ヒータ（別売品）は含んでおりません。
注）電気ヒータを組込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。
- 4) 同一系統内の室内ユニット電源は、必ず全て同時ON、同時OFFになる様にしてください。
- 5) 信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損してしまいますので、ご注意ください。

配線系統図（室外・室内ユニット接続要領）

① マルチシリーズの場合



② シングルシリーズの場合



注意

- P560タイプの場合は、室外機1台に対し室内機1台しか接続できません。（室内機複数台接続不可。）

電源仕様

(50/60Hz)

室内ユニット 合計電流 (A)	配線用遮断器 定格電流 (A)	漏電遮断器		
		定格電流 (A)	感度電流 (mA)	動作時間 (sec)
7以下	20	20	30	0.1以下
11以下				
12以下				
16以下	30	30		
19以下				
22以下	40	40		
28以下			50	50

配線仕様

(50/60Hz)

室内ユニット 合計電流(A)	電源用 配線太さ(mm ²)	配線 こう長(m)	信号線太さ	
			室外-室内(mm ²)	室内-室内(mm ²)
7以下	2	21	0.75~2.0 ×2本	0.75~2.0 ×2本
11以下	3.5			
12以下	5.5	33		
16以下		24		
19以下		20		
22以下		27		
28以下	8	21		

- 注 (1) 配線こう長は、合計電流値の最大値で記載してあります。
 (2) 室内ユニット接続線は5.5mm²まで使用可能です。8.0mm²以上の配線をご使用なされる場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐してください。
 (3) 配線こう長は、電圧降下を2%とした場合を示します。上表の配線こう長を超える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。

冷暖フリーマルチの場合

分流コントローラの配線

- 本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ(別売品)の据付説明書をご覧ください。

②アドレス設定

- (1) 自動アドレス設定 (2) 手動アドレス設定 (3) リモコンアドレス設定
 上記3項目については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
 なお、(3)リモコンアドレス設定については、設定可能な機種と不可能な機種がありますので、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

③リモコンの設定

機能の設定

- 標準的な使い方をする場合は設定の変更はいりません。特別に初期設定を変更する必要がある場合に、設定を変更してください。

各機能の初期設定は下記の通りです。

(1) リモコン機能

機能番号(A)	機能内容(B)	設定内容(C)	初期設定
01	グリル昇降設定	昇降無効	○
		有効50Hz地区	
02	自動運転設定	有効60Hz地区	
		自動運転有効	
03	温度設定	自動運転無効	○
		温度設定有効	○
04	運転切換	温度設定禁止	
		運転切換有効	○
05	運転/停止	運転切換禁止	
		運転/停止有効	○
06	風量調整	運転/停止禁止	
		風量調整有効	※
07	風向調整	風量調整禁止	
		風向調整有効	※
08	タイマー	風向調整禁止	
		タイマー有効	○
		タイマー禁止	

機能番号(A)	機能内容(B)	設定内容(C)	初期設定
09	リモコンセンサ設定	リモコンセンサ無効	○
		リモコンセンサ有効	
10	停電補償設定	リモコンセンサ有効	
		停電補償無効	○
11	換気設定	停電補償有効	
		換気接続なし	○
12	温度範囲設定	換気連動	
		換気非連動	○
13	室内ファン速調	表示変更有	
		表示変更無	○
14	冷専/ヒーボン	ファン3速	
		ファン2速	※
		ファン1速	
15	外部入力設定	ヒーボン	
		冷専	※
16	エラー表示設定	個別運転	○
		全台同一運転	
17	ルーバ制御設定	エラー表示有り	○
		エラー表示無し	
		ルーバ4位置停止	○
		ルーバフリー停止	

注1. 「※」印の項目の初期設定は、室内機の機種毎に異なり、下記の通りとなります。

機能番号(A)	機能内容(B)	設定内容(C)	初期設定
06	風量調整	風量調整有効	室内ファン風量2、3速の機種
		風量調整禁止	室内ファン風量1速の機種
07	風向調整	風向調整有効	オートシングルルーバ搭載機種
		風向調整禁止	その他
13	室内ファン速調	ファン3速	室内機ファン風量3速の機種
		ファン2速	室内機ファン風量2速の機種
		ファン1速	室内機ファン風量1速の機種
14	冷専/ヒーボン	ヒーボン	ヒーボン機
		冷専	冷専機

注2. 室内機に機能がない内容の場合、設定しても室内機は作動しません。

(2) 室内機能

機能番号(A)	機能内容(B)	設定内容(C)	初期設定
01	高天井設定	標準	○
		高天井1	
03	フィルターサイン設定	表示しない	
		180時間後	
		600時間後	○
		1000時間後	
04	ルーバ制御設定	1000時間→停止	
		ルーバ4位置停止	○
05	外部入力切換	ルーバフリー停止	
		レベル入力	○
06	運転許可/禁止	パルス入力	
		通常運転	○
07	暖房室温補正	有効	
		通常運転	○
08	暖房ファン制御	室温補正+3℃	
		弱風	○
09	凍結防止温度	停止→弱風	
		2.5℃	○
10	凍結防止制御	1℃	○
		ファン制御有効	○
11	電気集塵機	ファン制御無効	
		ファン制御有効	○
12	加湿器制御	ファン制御無効	○
		ファン制御有効	
		ドレンモータ非連動	○
		ドレンモータ連動	

機能設定の仕方

1. エアコンを停止させて、「セット」と
「運転切換」ボタンを同時に長押しする。

2. 「セット」ボタンを押す。

3. 設定したい内容が、「リモコン機能」か
「室内機能」かを確認する。

4. ▲または▼ボタンを押す。
「リモコン機能▼」又は
「室内機能▲」を選びます。

5. 「セット」ボタンを押す。

6. 「リモコン機能」を選んだ場合

① 「データ読込中」(点滅表示)

「機能」で選択

「01 グリル昇降設定」と、表示が切り換わる。

② ▲または▼ボタンを押す。

リモコン機能一覧表の「機能番号A及び機能内容B」が順番に表示されますので、機能を選びます。

③ 「セット」ボタンを押す。

表示が「設定」で選択 → 「設定内容C」

(例「リモコンセンサー無効」)と切り換わります。

④ ▲または▼ボタンを押す。

「設定内容C」が順番に表示されますので、設定を選びます。

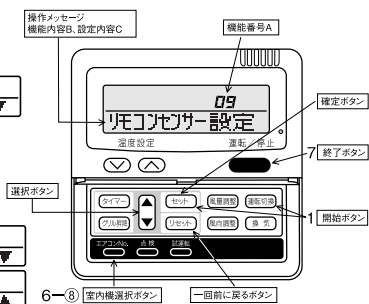
⑤ 「セット」ボタンを押す。

「設定内容送信」が表示され、設定が完了します。

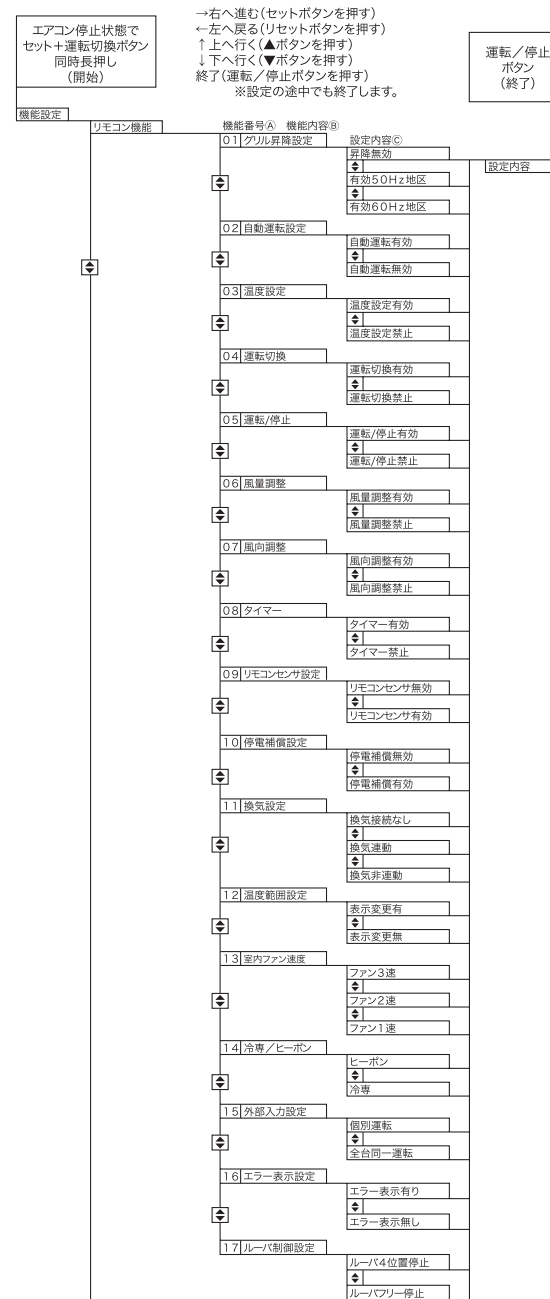
その後、「機能番号A及び機能内容B」の表示に戻りますので、
続けて設定する場合は、同じ要領で設定してください。

7. 「運転/停止」ボタンを押す。

設定を終了します。設定の途中で終了しますが、設定が完了し
ていない内容は無効となりますので、ご注意ください。



【機能設定のながれ】

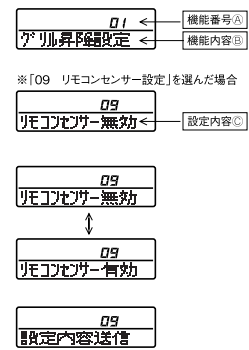


→右へ進む(セットボタンを押す)
←左へ戻る(リセットボタンを押す)
↑上へ行く(▲ボタンを押す)
↓下へ行く(▼ボタンを押す)
終了(運転/停止ボタンを押す)
※設定の途中で終了します。

設定の途中で、「リセット」ボタンを押すと、
一回前の設定表示に戻ります。
但し、設定が完了していない内容は無効と
なりますので、ご注意ください。

【現在設定確認方法】
上記の操作により、「機能番号A及び機能
内容B」を選び、「セット」を押した時に、
最初に表示される「設定内容C」が、現在
設定されている内容です。(但し「全台▼」
を選んだ場合は、室内番号の最も若い機種
の設定が表示されます。)

セット内容は、コントローラ内部に記憶
され停電しても保存されております。



※1 ※2

室内機能	機能番号(A)	機能内容(B)	設定内容(C)
室内機No.選択	00	室内機複数台接続時のみ	
室内00	01	高天井設定	標準 高天井1
室内02	03	フィルタサイン設定	表示しない 180時間後 600時間後 1000時間後 1000時間→停止
室内04	04	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止 ルーバフリー停止
室内05	05	外部入力切換	レベル入力 パルス入力
	06	運転許可/禁止	通常運転 有効
	07	暖房室温補正	通常運転 室温補正+3°C
	08	暖房ファン制御	弱風 停止→弱風
	09	凍結防止温度	温度 高 温度 低
	10	凍結防止制御	ファン制御有効 ファン制御無効
	11	電気集塵機	ファン制御無効 ファン制御有効
	12	加湿器制御	ドレンモータ非運転 ドレンモータ運転

※室内機を換えて設定する場合は、エアコンNo.ボタンを押すと、室内機選択表示(例:室内00)に戻ります。

制御の切換

■ 囲みが工場出荷時の設定

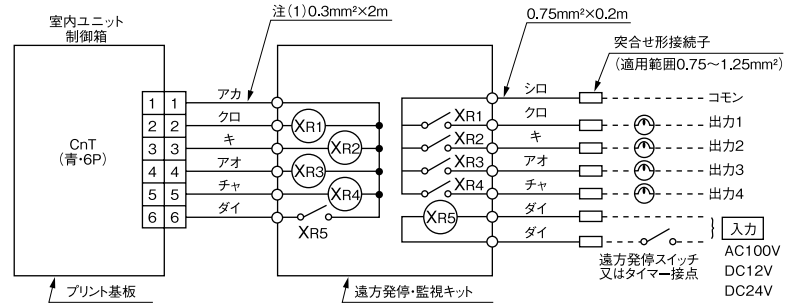
リモコン内部のスイッチ・ジャンパー線を切り換えることで、室内機の制御内容を変換できます。

SW5-1	ON	ドレンポンプ試運転
	OFF	ドレンポンプ自動
SW5-2	ON	加湿器残留運転 有効
	OFF	加湿器残留運転 無効
SW5-3	ON	外部入力 パルス入力
	OFF	外部入力 レベル入力
SW5-4	ON	緊急停止信号 有効
	OFF	緊急停止信号 無効
SW6-1	機種容量設定	
SW6-2	機種容量設定	
SW6-3	機種容量設定	
SW6-4	機種容量設定	
SW9-1	ラクリーナパネル降下長設定	
SW9-2	ラクリーナパネル降下長設定	
SW9-4	ON	ファン制御 高速(高天井)
	OFF	ファン制御 標準

J1	短絡	フィルタサイン有効		
J1	開放	フィルタサイン無効		
J2	短絡	運転制御標準		
J2	開放	運転許可禁止		
J3	短絡	暖房サーモOFF制御はJ4による		
J3	開放	暖房サーモOFF時停止		
J4	短絡	暖房サーモOFF時間欠運転		
J4	開放	暖房サーモOFF時Lo風量運転		
J8	短絡	加湿器ドレンポンプ非運動		
	開放	加湿器ドレンポンプ運動		
J10	リモコン風量表示の切換 ×:開放 ○:短絡			
	記号	設定1	設定2	設定3
	J10	○	×	○
	J11	○	○	×
J11	風量切換設定 (急/強/弱)			
	3速 (急/強/弱)	2速 (急/弱)	1速 (風量調整無効)	
	※風量切換設定の工場出荷時設定は、室内機により異なります。			

注) 機種によっては、上記制御内容の一部が無い機種もございます。詳細は機種別の結線銘板をご覧ください。

④室内基板CnTコネクタの機能



注(1)2mより長くしないでください。

- XR1~4はDC12Vリレー (オムロンLY2F相当品)
- XR5は、DC12, 24V又はAC100Vリレー (オムロン製MY2F相当品)
- CnTコネクタ (現地側) メーカー、形式

コネクタ	モレックス	5264-06
端子	モレックス	5263T

●機能

出力1	エアコン運転出力 (エアコンON時X _{R1} =ON)	
出力2	暖房出力	
出力3	サーモON出力 (サーモON時X _{R3} =ON)	
出力4	エアコン点検出力 (エアコン点検時X _{R4} =ON)	
入力5	出荷時	X _{R5} OFF ⇒ ON エアコンON
		X _{R5} ON ⇒ OFF エアコンOFF
	現地切換 (SW5のNo.3をON)	X _{R5} OFF ⇒ ONのパルス信号によりON/OFF反転

●遠方発停・監視キットを別売品で準備しておりますのでご利用ください。

注意

●P560タイプは室内基板を2枚装備しております。CnTコネクタはどちらか片方 (どちらでも可) のみでご利用ください。

⑤試運転

試運転については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑥故障診断方法

故障診断方法については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑦工事完了後のチェック項目

- 電源電圧は本体表示と同じですか。
- 室外機側でアース工事はされていますか。
- 電源線の太さは指定の配線と同じですか。
- 電源線、信号線、リモコン線の接続位置は正しいですか。